

ればどうしても避けられないのですから。

もう一度、ゾンビ遊びのことですが、この「ゾンビ」は、それまでの保育の中で「自分は先生から受け入れられている、愛されている」と子供が感じ、自分のクラス以外にも、「頼れるところがある」という条件がなければ出現しません。そうした「明る

い」生活がなければ、保育者同士にも「明るい」関係がなければ、ゾンビはただ子供を怖がらせるだけです。「明るい」があつてこそ「暗い」で、その「暗い」があつてこそ「明るい」はさらに「明るい」となる、だから「暗い」は大事と。

(東京都港区立神明幼稚園)

「暗い」オランダ

向山 陽子



「ああ、オランダに帰ってきたね」

視界一八〇度全てを覆い、どんよりした曇り空と、見ていてあきない程、常に変化する厚い雲。陸路でも、空路でも、オランダに入るとため息と共に

行手を覆う空を見て（オランダでは、空は見上げなくともよいのです）つぶやいたものです。そして、次のバカンスⅡ南への旅まで、この天気になげずになんばろうと気をひきしめるのです。昨年夏は、

夏がなく、つまり晴れた気温の高い日（高いといってもせいぜい25℃）がなく、オランダ人にもノイローゼ患者が大勢出たと聞いています。

オランダといえば、風車とチューリップと明るいイメージを持っていらっしゃる方々には申し訳ありませんが、もう少し、どんよりとした暗いオランダを紹介しましょう。

日本ではあまり人気のないフランドル派の絵画を思い起こして下さい。暗くて、「雲が風景になる」フランドル地方を私達に教えてくれます。

泥低地で、じゃがいもしかとれない暗いこの地に生まれたゴッホが、太陽の光にあふれたアルルに憧れ移り住んだものの、次第に精神を病んでいったのも、この地に四年半も住んでみると妙に納得できます。私には、ゴッホにとってアルルは明るすぎた、太陽が多すぎたのだと思います。私だって、フランドル地方に二年も住んだ後では、フランスを車で走った時、その明るさ、実り豊かな大地、青すぎる

空、あまりに屈託なく笑う陽気な農夫達がまぶしすぎて、「あゝ、私、ゴッホになっちゃう」と叫んだのですから。

五年前の四月。世の中は浮き浮きと、桜の花の下新しい門出にぎわう日本から、どんよりに加えて、季節の変わり目の雨風の強い日が毎日続くオランダへ渡った頃を思い出します。

家々の庭に咲き乱れる、水仙、チューリップ。道端のハマナスの垣。雌雄呼びあう鳥の声に目をさます毎日。自然は、空がどんなに暗くても、春が来た事を告げてくれ、曇り空の異国での生活への不安な心に光を与えてくれました。半年続く、暗い冬が去って、春が来る喜びを、オランダの人達は体中で表します。太陽の有難さを、身にしみて知っています。太陽の出た日の少なかった夏の次の冬は、風邪をひく人が多く、乳幼児やお年寄り、命とりになるというのですから。

お隣のおいしいちゃんは、庭仕事のたびに声をかけてくれました。青空が出ると「Yoko, It's a beautiful day!」と。そして、太陽の動きを追いかけて日向ぼっこがはじまります。まるで向日葵のように、午前は前庭で椅子を回して、午後は後庭でという風に。

洗濯物は、室内の方が乾燥しているので、室内に干すことが多くなります。一年の半分を占める冬は、とにかく太陽が出ないので。夏、太陽が出た日は、洗濯物を庭に干し、カーテンは全て開けて、(大きな窓は開きません)太陽の光を入れたものです。

スーパーマーケットのレジ係が、子ども達に手渡してくれる黒い飴は、ビタミンDとか。ビタミン剤は、必需品。そして、果物、ナッツ類、干しバナナ等の太陽の産物を「好き嫌いではなく必要から」よく食べました。意識せずとも多様な食品が得られ、さらに「おいしさ」を追求できてきた日本の自然の



▶ 冬の遊び。氷の上で遊ぶ子ども達

有難さを、又、意識せずとも太陽を浴びられる幸せを、帰国した今、意識して感謝する毎日です。

反面、オランダの人々は、「暗い」ことをも大切にし、楽しむ術を知っています。「暗」と共存してきた長い歴史は、多くの知恵と、豊かな思索を生んできたことでしょう。

室内の照明がそうです。天井の照明はなく、スタンド・ライトや、ランプによる間接照明がほとんどです。そして室内を、光と影、明と暗に演出します。街中も、むやみに明るくしません。必要なイルミネーションだけです。もともと、店は、五時に閉店、日曜は休み、夜は、街中でも人影はありません。あるオランダ人は「むやみに明るくしてどうするの？ 鳥がいなくなるよ、動物がびっくりするよ、花が育たなくなるよ、赤ちゃんが眠れないよ」とウインクしてささやきました。

「暗い」を演出する最たるものは、ろうそくで

しょう。北欧の人ほど、ろうそくの使い方が上手だと感心しました。贈り物にもろうそくは喜ばれています。パーティーの席でのろうそくは、テーブルを囲む人々の心を一つにし、暖かく、なごやかで、大人の女性を美しくみせてくれます。

暗い日の多いオランダでは、それ故に、明るい日を心から喜び、太陽の光を体内にとり入れることに一生懸命になる必要がありました。と同時に、「暗い」ことにも、十分価値をおくことのできる、素敵な大人の方達と会うことができました。

光と暗に、同等の価値をおける人達の国は、世界観、人生観、子ども観、自然観……等々が、大人だなど感じるのは、私だけでしょうか。日本人だって闇を知っている奥深い人間のはずだと信じているのです。が……。